

議 事 録

| | |
|----------------|--|
| 会議の名称 | 令和3年度第3回フラワータウン再生推進協議会 |
| 開催の日時 | 令和4年1月17日(月) 10:00~12:00 |
| 開催の場所 | 兵庫県立 人と自然の博物館 4階大セミナー室 |
| 出席した委員の氏名 | 角野委員長、赤澤副委員長、水野委員、和田委員、田村委員、岡田委員、福井委員、出合委員、佐々井委員、前田委員、谷舗委員、榎本委員、吉田委員(代理出席:兵庫県住宅供給公社 金澤課長)、濱本委員、印藤委員、久高委員 |
| 出席したオブザーバーの氏名 | 高田オブザーバー、福本オブザーバー、植平オブザーバー(代理出席:兵庫県住宅政策課 大澤主査)、小東オブザーバー、千原オブザーバー |
| 欠席した委員の氏名 | なし |
| 出席した庶務職員の職及び氏名 | 龍見まちの再生部参与、小倉都市政策室長 都市政策課:榎本課長、門内担当課長、神影係長、小松係長 |
| 傍聴者の人数 | 1名 |
| 報告事項 | ・フラワータウン再生ビジョン(素案)に関する意見交換会について |
| 議題 | ・フラワータウン再生ビジョン(案)について |
| 公開・非公開 | 公開 |
| 使用した資料 | ・次第 ・資料1(報告で使用) ・資料2(議題で使用) |
| 連絡先 | まちの再生部 都市政策室 都市政策課 電話(079)-559-5127 内線2821 |

1 開会

<門内担当課長の司会により開会>

2 報告 フラワータウン再生ビジョンに関する意見交換会について

<事務局から資料に基づき説明>

委員

今回、意見交換会を開催されて、参加者の85%がフラワータウン在住で、残りの15%がフラワータウン以外の方という報告を受けました。意見交換会の周知方法とフラワータウン以外の方、15%はどんな方がおられたのかを教えてください。

事務局

意見交換会の周知は、フラワータウン内の8,300世帯にチラシを配布しました。また、開催日2週間前までに市ホームページに開催の告知を掲載しました。

参加者の内訳ですが、フラワータウン在職でフラワータウン以外にお住まいの方が参加されていたのと、報道関係者が来られていました。

3 議題 フラワータウン再生ビジョン（案）について

<事務局から資料に基づき説明>

委員

再生ビジョン（案）は、意見交換会の意見を反映したということで、8ページの小学校児童数について注釈をつけていただきました。しかしながら、ご意見をおっしゃられた方は、武庫小学校におけるフラワータウン以外の児童数を気にされていたかと思しますので、その人数を記載してはどうでしょうか。

事務局

8ページでは、武庫小学校に下深田の一部が入っていること、富士小学校に池尻区、上深田が入っているということを記載しています。本ビジョンでは、各学校での児童数・クラス数の減少具合をお示しするという主旨から、武庫小学校の児童数に下深田地区の児童数の個別の人数を出すことが必要かどうかを勘案して、現状では記載していません。

委員長

小学校の児童数、中学校の生徒数についてデータを示していますが、クラス数がどうなっているのかも重要だと思います。参考までに、この資料では、例えば狭間小学校はかつて32クラスだったのが、今は11クラスになっている、つまり1/3程度になっているということがわかるように伝えるべきだと思います。

委員

小学校の児童数についてですが、下深田地区の児童数が武庫小学校の児童数に影響がない数字であればよいが、武庫小学校では下深田地区の児童数が約半数を占めています。このまま10年経過すると、ほとんどが卒業して、他の地区の児童数と同様になることも想定されます。そのため、具体的な数字は重要であると思います。わずか1割、2割であれば、このような表現でよいと思いますが、500人程度の児童数がある中で、下深田の児童数は5割を超えています。武庫が丘だけで見ると、弥生、富士、狭間の児童数と変わらない、その実態が見えにくくなっていると思うので、考慮いただきたいと思います。

事務局

武庫小学校区に含まれている下深田地区の住宅団地は平成11年から平成29年にかけて、民間事業者が開発・分譲を進めた場所で、現在450戸ほどの戸建住宅地を形成しています。このように下深田団地は、武庫が丘とは開発経緯も時期も異なり、武庫小学校の児童数に影響しています。本ビジョンの中では、公園や道路と同様に学校についても遊休スペースが出てくる可能性があることを示しています。武庫小学校に限らず、クラス数、児童数がどうなっていくか、また、今後の学校のあり方については市教育委員会が所管しており、今後検討していくものと考えます。

委員長

ニュータウンの再生はその中だけのことを考えるということではなく、周辺の農村地域や他の住宅地との関係を意識したうえで、検討しないといけません。ニュータウン再生の考え方の基本として、本ビジョンのどこかでこのことが伝わるようにしておけばよいと思います。

委員

意見交換会について、資料1の9ページ、A-2の意見で、ビジョンの中の取り組みで重要性、緊急性が高いものを具体的に示していただきたいとあった。様々な方が様々なことを実施していく中で、単発的なイベントをただけでは、再生への取り組みが進んでいるのか、また、新たな事業者が続いていくのかが見えにくいと思います。今回のビジョン策定によりすぐ取り組むものなのか、来年度以降のアクションプランで取り組むものなのか、ある程度骨格を描いておく方がよいと思います。ロジックモデルと言われますが、事業がどうつながって、どういうルートで目標達成に至っているのか。その中で、クリティカルパスと言いまして、ここをクリアしたら次に進める、その大事なところはどこかを示すことが、よく政策でも事業でも行われています。本ビジョンでは「キックオフプロジェクト」が提案されており、これがクリティカルパスとなると思いますが、目標までのルートを描くことはできないでしょうか。10年後不安とならないように、第1次産業の方、周辺の農業者の方などとの関係性を同時並行で考える必要があるのではないのでしょうか。また地域の方々にもいろいろな役割があるということを示すためにも、大きな流れを記載しておくことが良いと思います。

事務局

意見交換会で、取り組みの重要度、緊急性の考慮とスピード感を重要視するご意見をいただいています。本ビジョンは、まちづくりの方針・方向性を示すものでありながら、「キックオフプロジェクト」を提案し、本ビジョン策定後、すぐに取り掛かれるものとして意思表示しているものです。これをクリティカルパス、施策にどう繋げていくかについては、74 ページの再生に向けたロードマップにお示ししています。もう一点、周辺の農村地域や他の住宅地との連携については、再生に向け市としても重要であると認識しています。それらとの関係性については記載できていませんので、事務局で検討したいと思います。

委員長

第 6 章の推進体制でロードマップが記載されており、キックオフプロジェクトに繋がっています。先ほどのご意見は、キックオフプロジェクトの必要性、また、期待される効果を説明する必要があるということだと思います。少し工夫していただければと思います。

委員

66 ページ、防災の視点の追加事項について、公園などへの車両進入が想定されます。その時に通学路を横断しなければならない状況が発生しますが、調整はしていただけるのでしょうか。

事務局

66 ページ記載の公園は住区に近い公園を想定しています。災害時には緊急車両扱いでの進入を想定しております。災害時ですと通学路の調整までは想定していません。

委員

進入に関する許可申請などが発生するのでしょうか。

事務局

その仕組みも今後検討していく必要があると考えています。本ビジョンでは、公園で発生した余剰スペースを住民に使っていただく取り組みの一つとして記載しています。

委員

高齢者の安心を高めることも重要ですが、若者に対する魅力を増やし、若者をフラワータウンに増やすことが根本なので、本ビジョンで具体的にアピールしてもよいのではないのでしょうか。テクノパークは 5,000 人も働いているので、もっと具体的な施策を記載してもよいのではないのでしょうか。また、意見交換会で若者からの意見もありましたが、若者はパブリックコメントを恐らく知らないし、市のホームページの閲覧頻度も低いと思われます。人と自然の博物館で実施している「まちかど談話」など、もっと若者の意見を集約する方法はないのでしょうか。

事務局

まさに本ビジョンの柱の一つとしているのが若者の移住定住で、フラワータウンに魅力を感じてもらい、住み続けてもらうことを目指しています。そのため、わかりやすいビジョンを策定することはもちろんですが、若者にはアピールをしていきたいと考えています。

また、テクノパークでは約 5,300 人が就労しているというデータがありますが、職住近接の観点から三田市外に住まれている方をフラワータウンに呼び込みたいと考えています。具体的には、本ビジョン策定後、産業施策、移住定住施策とも連携しながら取り組んでいきたいと思っています。

意見が高齢者に偏っているのではないかとということですが、若者の意見をできるだけ収集する工夫をしており、例えば昨年実施した住民アンケート調査に関しては、インターネット媒体を活用し、簡単に回答できるようにしました。また、人と自然の博物館で実施している「まちかど談話」については対面式ですので、年齢層を見ながら意見聴取をしていただきたいと思います。

委員

フラワータウンに引っ越してきた人の多くは、緑豊か、環境が良いということに魅力を感じています。今後、この魅力を維持していただきたいと思っています。しかし、今、その緑の管理が乱れているという意見があります。ただし、すべてを行政にお願いするとなると財政的に問題があることもわかります。数年前から、住民に参加してもらい緑化を進めています。住民自らが地域を美しく、楽しい生活環境にすることが必要と感じており、行政との協働をどこかに盛り込んでいただけないか、検討をお願いします。

事務局

フラワータウンは緑豊かで、美化されたまちを形成していますが、財政的なことで植栽の管理が悪くなってきていることは認識しています。現在、市では「街路樹の適正管理に向けた基本方針」の策定を進めています。その中で、市民との協働による緑化活動を増やしていこうと考えています。また、街路樹を適正に管理するために、樹種の変更によるコスト削減や景観を低下させずに街路樹の間隔をあけるなど具体策を検討しています。また、本ビジョンでは取り組み 11「公園や道路等の管理への住民参加の促進」でお示ししています。

委員

フラワータウンの再生には、商業の活性化が外せないと考えています。そのため、商業事業者の意見を聞くことができるかもしれないということで意見交換会に参加させていただきました。商業に携わっている人の意見は私もよくわかっていないのが現実です。また、農業も外せないと思っており、農業者との関わりについては、本ビジョンに記載していくということで理解しています。商業事業者との協働の取り組みは模索中ですが、ぜひともキックオフプロジェクトで、ある程度具体的な内容を反映していきたいと思っています。キックオフプロジェクトにどれだけ携われるかが重要と感じており、その手順や方法について教えていただきたいと思います。

事務局

商業事業者によるセンター地区の活性化は本ビジョンの柱の 1 つですが、キックオフプロジェクトとしては 81 ページの③を提案しています。これは交通事業者、商業事業者、テナントを管理されている方、住民、公的機関が協力してセンター地区を盛り上げていく仕組みづくりを提案しています。そこには当然、周辺の農業従事者の方々とも連携できると考えています。まずはこの始動事業を、商業事業者等の意見を聞きながらエリアマネジメントとして地域の活性化に向けた取り組みを実施していきたいと考えています。もう一つは、周辺の農村地域の方をフラワータウンの活性化に向けた取り組みに巻き込むことも重要となってくると認識しています。市が定めたキックオフプロジェクトだけではなく、住民や事業者が新たなキックオフプロジェクトを自ら提案するものとして 83 ページに白紙のキックオフプロジェクトを提案しています。この白紙のページを埋めていただいて、キックオフプロジェクトに様々な方に参画していただければと思っていますので、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

委員

フラワータウンは主体が豊富ですが、フラワータウンの再生に向けての取り組みを誰が実施するのかについて、フラワータウンの中だけで考えるのは限界があると思います。周辺の農村集落を巻き込んでいく意見もありますが、新しい事業者を取り込んでいけるような、外部の力を呼び込んでくる視点をどこかに盛り込めないかと思っています。フラワータウンが閉じないようになるために考慮していただきたいと思います。

事務局

現在、フラワータウン内の事業者により、商業の維持、賑わい創出等にご尽力いただいているところです。今後、フラワータウンの再生に向けては、新たな事業者も必要だと思っています。その方々をどこに入れてきてもらうのかということですが、一つは、コムス、サンフラワーなどの施設でテナント募集をしてもらうこと、もう一つは働き場の創出ということで、65 ページに記載していますが、商業・サービス・業務施設を居住地に近いところに配置するということで、新たな事業者に入れてもらえるかと考えています。また、取り組み⑦では、公共施設の遊休地に事業者を呼び込むことも想定しています。

委員

泉北ニュータウンは新規の事業者を引き込むために、ニュータウンの再生に向けたサウンディングを実施していました。新しくビジネスをしてもらうような情報の提供も重要だと思います。

委員長

個別の取り組みについては 5 章までに記載がありますので、6 章で今の意見について記載を検討すればよいと思います。

委員

71 ページに地域力を上げると記載がありますが、今後、具体的にどう上げていくのか、キックオフプ

プロジェクトに含まれているのか。取り組みはたくさん記載してあるが、どういう風に具体化して、再生に繋げるかというところが見えてきません。また、どう関わるのかを教えてください。

事務局

キックオフプロジェクトは、本ビジョン策定後すぐ実施できることとして示しています。取り組み①～②を具体化していくのは次の段階と考えており、本ビジョンの74ページになりますが、アクションプランの検討時に具体化していくこととしています。

キックオフプロジェクト③では、フラワータウンを活性化するための仕組みづくりを提案していますが、地域との協働によるものも想定しております。

高齢化の進展による地域活動の縮小の話、まちづくり協議会との連携なども地域において重要な部分であると思います。

本ビジョンの方針に基づき、今後アクションプランを検討することになりますが、部門別で各所管が具体的に取り組みを皆様と考えていくことになっていきます。そこで、具体的な取り組み案ができてくると思っています。本ビジョンでは取り組みの方針・方向性を示すもので、個別具体的な取り組みは描き切れていませんが、ご理解いただきたいと思ひます。

委員

そういった具体化をする作業の中に、地域の人が入っていくことはできるのでしょうか。

事務局

もちろん、住民の方にはぜひ参画していただき、また、参画してもらわなければ再生が進まないと考えています。参画できる、できないを決めて本ビジョンを作成しているわけではありませんが、各取り組みに地域の方の参画をお願いしたいというものにつきましては、そのように表現させていただいています。今後の再生に向けた取り組みには、地域の方の参画をお願いすることになると思ひますので、その時にご協力いただけたらと思ひています。

委員

人と自然の博物館に協力いただいている「まちかど談話」について、内容を聞く機会があるのか教えてください。

事務局

「まちかど談話」について、本ビジョンの巻末に掲載していますが、第1回が11月3日、第2回が12月16日、第3回が意見交換会後の1月9日で、現在まで3回開催しています。内容については現在、3回目までの分を整理している最中で、第4回の協議会で報告できたらと思ひています。